

## 震災後の我社 ～復興に向けた思い～

私共、株式会社あぶくま川内は、平成 16 年の地方自治法の一部改正により、指定管理者の指定を受けるため、村商工会青年部が主体となり、平成 17 年 2 月設立をし、同年 4 月より村交流施設であります、かわうちの湯、いわなの郷の管理運営を始めた処であります。

平成 23 年の大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故により全村避難となりました。当然ながら会社の従業員も全員避難、そして全員解雇となり株式会社あぶくま川内も、存廃の危機にたたえられました。

幸いにも、川内村は、比較的放射線量も低く同年 11 月ころから除染の準備に入りそれに伴い、作業員の宿舎、食事等を依頼されると共に、避難をされなかった双葉広域消防本部、又川内村に帰還をした人たちに安らぎの場所を提供しよう、そして、そのことが復興の始まりのシンボルにしようとの思いから避難をされていた従業員を呼び戻し、又新たに従業員の確保に当り、川内村そして地域の復興のためのフロントランナーになろう、の合言葉から、かわうちの湯の一部開放、いわなの郷のコテージの解放をしました。

翌 24 年には、仮設のビジネスホテルの管理運営を委託されましたが、ホテル運営は未経験でありながらも、村商工会、猪苗代のホテル等からアドバイスを頂き、又、村内外から従業員を募集し、ホテルの運営に携わり、復興支援には現在も十分な役割を担っております。

さらに 25 年 6 月には、いわなの郷の再開、そして 26 年 4 月には、かわうちの湯がリニューアルオープンをし、全ての施設が、震災前と同じ営業体制となりましたが、かわうちの湯、いわなの郷に訪れるお客様の数は、震災前の利用者数には程遠いのが現状でございますが、住民帰村、川内村再生には、その役割を充分果たしているものと思われれます。

震災後は、復興の後方支援としての役割を果たす一方村内外で行われる、復興イベント、催し等には積極的に参加をし、当社の存在意義を、十分に発揮をしております。

北海道土別市、宮城県女川町等との交流をはじめ、各行政機関、NPO 法人、又個人的にもたくさんの人からご指導、アドバイスを頂戴しながら、交流を頂いております。

又、いわなの郷での、川内村の厳しい冬場でのキャンプ体験の実施、また、いわなの郷体験交流館での、手作りの結婚式も 2 回程実施をいたしました。そして震災前には、定期的に行われていた高校生のスクーリング、夏合宿も昨年より再開をしております。

今後は合宿の里づくり等、複合的な施設整備のプランニングをし、川内村の特徴を活かした交流人口の増加を考えております。

又、昨年度から農産物直売所「あれこれ市場」の指定管理者の指定を受けて、管理運営を行っております。

川内村の新たな特産物の開発、販売には、特に力を入れ、当社で運営するすべての施設でコメは勿論のこと食材は、村内で生産される物を使い、風評被害払拭に努めております。又震災後、イワナの加工品の開発、製造そして販路開拓にも力を注ぎ、コラボせふくしま、日本橋ふくしま館（ミデッテ）での商談会、都市部の大型商業施設での出展参加等、精力的に売り込みをしております。

震災から 7 年が経過し、賠償金・補助金等の打切りにより、経営内容が厳しさを増す中、管理部門及び経理部門の充実を図り、係数管理を徹底的確な指示と人事考課を図りながら経営体質の強化を進めると共に、より一層の“おもてなしの心”を基本として業務に精励し、会社の体質強化を進める事は当然のことながら、川内村のイメージアップ、そして、「新しいかわうちを作る」ためには、組織の枠を超えて、株式会社あぶくま川内を中心となり、活動してゆく必要があると思っております。

会社の、経営理念であります、「村民のために、川内村のために、そして地域のために」を旨として一歩一歩、確実に、進んで、川内村、双葉地方の復興のため、地域の人たちとの、交流促進を図りながら、事業運営に取り組んでゆき「新しい川内村、双葉地方」を作りたくと考えております。

## 震災後のわが社

### ～被災地再開事業所紹介～

## 株式会社 あぶくま川内

所在地：双葉郡川内村

事業内容：温泉施設、宿泊施設、飲食施設、釣り堀、直売所などの施設管理営業等



かわうちの湯



かわうちの湯 従業員



いわなの郷 幻魚亭



いわなの郷 コテージ



ビジネスホテル かわうち



あれこれ市場